



山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 アジア千波万波部門19作品ラインアップ決定！！

特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭は、10月10日 [木] から17日 [木] の期間で開催する山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 に関しまして、アジア千波万波部門作品募集として2012年9月1日より2013年5月31日（消印有効）の期間で受付を行った中から、19作品をアジア千波万波部門上映作品（下記リスト参照）として決定いたしました。

●応募総数 **63の国と地域から608本**
インターナショナル・コンペティション部門と合わせると、
123の国と地域から1,761本（前回比98.8%）

●比較 前回（2011アジア千波万波）は63の国と地域から705本

●アジア千波万波部門とは

1989年の第1回開催当時、ドキュメンタリー映画に焦点をあてた映画祭がアジアで初めて開催されるに到ったものの、アジア地域からの作品がほとんど見当たらなかったことに端を発して、アジアのドキュメンタリー作家を応援し、発表の場を生み出すことを目的としてコンペ部門として93年に設けられました（当時「アジアプログラム」）。アジアの作家の成長を誰よりも強く望んだ小川紳介監督（上山市牧野村にプロダクションごと移住し、自給自足の生活を送りながら映画制作を行った）の意志を受け継ぐ意味を込めて、小川紳介賞が設けられています。これまで、カンヌ国際映画祭でパルムドールを受賞した河瀬直美監督やアピチャップン・ウィーラセタクン監督ほか、アジア千波万波部門での上映をきっかけに、国際映画祭の舞台へと巣立っていく作家が後を絶ちません。粗削りでもエネルギーに満ちた作品が集う、熱気のある人気プログラムです。

・映画祭期間中、国際審査員によって以下の賞が選ばれます。

小川紳介賞

奨励賞

●アジア千波万波 上映作品 全19作品（うち2作品が日本作品 No.3 No.13）

※タイトルは仮題です

1 『みんな聞いているか！』 Are You Listening !

監督：カマル・アフマド・サイモン Kamar Ahmad Simon

バングラデシュ/2012/ベンガル語/カラー/89分



サイクロンにより、避難せざるを得なくなったデルタの集落100世帯あまり。約束された新堤防は出来る気配がない。しかし故郷は失いたくない。ならば、自分たちで作るしかない。水と背中合わせのたくましくもしなやかな生活を描く。

2 『デノクとガレン』 Denok & Gareng

監督：ドゥウィ・スジャンティ・ヌグラヘニ Dwi Sujanti Nugraheni

インドネシア/2012/インドネシア語/カラー/89分



14才で家出しガレンと出会って妊娠、結婚したデノクは、父が借金を残して出奔した夫の実家で、母や弟たちと一緒に生活する。常に経済的な問題を抱えながらも、どこか楽天的な雰囲気満ちた一家の日々が伸びやかに描かれる。

3 『わたしたちに許された特別な時間の終わり』 The end of the special time we were allowed

監督：太田信吾 Ota Shingo

日本/2013/日本語/カラー/142分



この映画を完成させて欲しいという遺書を残し、主人公の友人は自殺した。監督は映画を完成させようと悪戦苦闘するが、記録映像とフィクションを織り交ぜた物語は混乱し、崩壊していく。

4 『エクス・プレス』 Ex Press

監督：ジェット・ライコ Jet Leyco

フィリピン/2011/フィリピン語、英語/カラー、モノクロ/90分



土砂災害で立ち往生したフィリピン国鉄ビコール・エクスプレスに監督は乗っていた。鉄道警察の男についての証言、その地に伝わる新人民軍と国軍の歴史、沿線で遊ぶ子供たち。車窓から空想と現実の物語を映し出す映像の冒険。

5 『ゴールド・アンダーグラウンド』 Gold Underground

監督：黎小鋒（リー・シャオフォン）、賈愷（ジャー・カイ） Li Xiaofeng、Jia Kai

中国/2012/中国語/カラー、モノクロ/138分



一攫千金を目指して多くの人が集まる榆林の炭鉱は“中国のクウェート”と呼ばれた。炭坑夫たちと経営者たち、輸送するトラック運転手、そして運転手を手配する店の女性主人。異なる映像手法を織り交ぜて、彼らの世界を映し出す。

6 『トランスジェンダーつれづれ』 In-Between Days

監督：ションコジト・ビッシャス Sankhajit Biswas

インド/2012/ベンガル語/カラー/58分



コルカタに住むトランスジェンダーの仲良し二人組。高校では、女っぽさをからかわれ、彼氏から捨てられても、めげずに立ち上がる。先輩格のトランスジェンダーの姉御たち、彼・彼女らを取り巻く表と裏の現実をカラフルに描く。

7 『鉄の時代』 Iron Age

監督：チョン・ジユン Jung Ji-yoon

韓国/2013/韓国語/カラー/38分



70年代に政治活動をしていて獄中にもあり、娘と7年間も離れていた監督の母。その空白を埋めるために映画を作ろうともがく監督に対し、語りたがらなかった母も次第に変わってゆく。独創的な映像センスで、ある暴力の時代を省みる。

8 『モーターラマ』 Mohtarama

監督：マレク・シャフィイ、ダイアナ・サケブ Malek Shafi'i, Diana Saqeb

アフガニスタン/2012/ダリー語/モノクロ/60分



アフガニスタン3つのそれぞれの街で、ブルカの強制やストリート・ハラスメントに抗議し、女性の権利を求めて活動する女性たち。同じく活動家である共同監督の一人は彼女たちの胸の内を聞き、共に行動しながら、女性たちの本音を記録した。

9 『ブアさんの絨毯』 Mrs. Bua's Carpet

監督：ズーン・モン・トゥー Duong Mong Thu

ベトナム/2011/ベトナム語/カラー/35分



かつてベトナム戦争時に対立していた隣人たちが、今では共生する小さな村。そこに暮らすブアさんの体には、米軍人から受けた拷問の後遺症が残っている。ブアさんや隣人たちが日常生活の中で語る戦争体験は村の記憶となって映像に刻まれる。

10 『怒れる沿線：三谷（サンヤ）』 Raging Land 3: Three Valleys

監督：陳彦楷（チャン・インカイ）、菜園村の人々 Chan Yin Kai, Choi Yuen Villagers

香港/2011/広東語/カラー/310分



香港で高速鉄道建設のために、移転させられる菜園村。そこで住民たちと生活を共にし、記録し続けて来た監督の「怒れる沿線」三部作の最終章。日常の農作業とともに移転先についての議論、強制撤去に対する村人たちの直接抗議行動を克明に記録する。

11 『ぼくとおばさん』 South of the Clouds

監督：王爾卓（ワン・アルジュオ） Wang Erzhuo

中国/2012/中国語/カラー/80分



雲南に嫁ぎ、美容店を営む監督の叔母。母子のように接する監督のカメラの前で、子ども時代のコンプレックス、恋愛や家族について、監督への愛情と共に言葉が溢れ出る。店で働く女性たちの恋愛観などを対比させながら描くパーソナル・ドキュメンタリー。

12 『咲きこぼれる夏』 Summer Days In Bloom

監督：ノ・ウンジ、コ・ユジョン Roh Eun-ji, Go U-jung

韓国/2012/韓国語/カラー/73分



ある日、彼氏が出来たという連絡を友人からもらった監督は、HIV陽性者として活動する友人と恋人の新しい共同生活の撮影を始める。同性愛者そしてHIV陽性者としてカミングアウトすること、愛を欲する姿をカメラは精一杯受け止める。

13 『標的の村』 The Targeted Village

監督：三上智恵 Milkami Chie

日本/2012/日本語、英語/カラー、モノクロ/91分



沖縄、村を取り囲むように建設されようとするヘリパッド基地反対闘争のなかで通行妨害で国に訴えられた高江の住民たち。普天間基地でのオスプレイ反対闘争も描き、国家に対しての怒り、悲しみがストレートに心を打つ。琉球朝日放送制作。

(C) 琉球朝日放送

14 『チークを辿る道』 Teak Road

監督：ルーシー・デイヴィス Lucy Davis

シンガポール/2012/ダイアログなし/カラー/24分



チーク材でできたベッドの木片のDNAをたどってみれば、東南アジアの材木伐採場の歴史や、英国の植民地時代、日本の侵略、戦後の近代化といったシンガポール史まで、見えてきた。アニメーションや写真を使い、時間と空間の旅をする。

15 『歌は人生』 To Sing To Live

監督：趙剛 (チャオ・ガン) Zhao Gang

中国/2013/中国語/カラー/68分



芝居小屋で公演を続ける四川歌劇団。京劇のみならず様々な芸を披露するために、一人何役もこなす忙しさだ。大家族のような濃密な人間関係の中で、花形の若い女優は、思い悩みながらも、年配の観客の前で懸命に演じ続ける。

16 『愛しきトンド』 Tondo, Beloved: To What Are the Poor Born?

監督：ジュエル・マラナン Jewel Maranan

フィリピン/2012/フィリピン語/カラー/76分



人々がひしめき合って生活しているマニラ湾にせり出した足場の上。このトンド地区で暮らす3人の息子を持った母親は、4人目を身ごもっている。港湾の地鳴りのような音が響く生活空間が、映画の時間となって流れ、五感が揺さぶられる。

17 『この2メートルの土地で』 Two Meters of This Land

監督：アフマド・ナッシャ Ahmad Natche

パレスティナ/2012/アラビア語、英語、フランス語/カラー/80分



ラマラにある詩人マフムード・ダルウィーシュの墓碑の近くで、野外音楽イベントの準備が進んでいる。テレビ中継するクルーの準備風景、出入りする様々な人々の対話、リハーサル。その空間全体が、センスあふれる映像世界として構築される。

18 『戦争に抱 (いだ) かれて』 War is a Tender Thing

監督：アッジャーニ・アルンパック Adjani Arumpac

フィリピン/2013/フィリピン語、英語/カラー/51分



メディアで伝えられる紛争地帯としてのミンダナオ島。監督の両親を起点に、クリスチャンもムスリムもいる曾祖父らの世代の個人史をひも解きながら、国家の移住政策により、ミンダナオ島の人々が先祖代々の地から追いやられた歴史を辿る。

19 『何があったのか、知りたい (知ってほしい) 』 We Want (U) to Know

監督：エラ・プリーセ、ヌ・ヴァ、トゥノル・口村の人々 Ella Pugliese, Nou Va, The people of Thnol Lok

カンボジア/2011/クメール語、英語/カラー/54分



イタリア人とカンボジア人の2人の監督が、村に長期滞在し、ワークショップをしながらポル・ポト時代に何があったのか、村人たち自身と掘り起こしていく。語り再現することによって人々自身の記憶を甦らせ、若い世代に伝えていく試み。